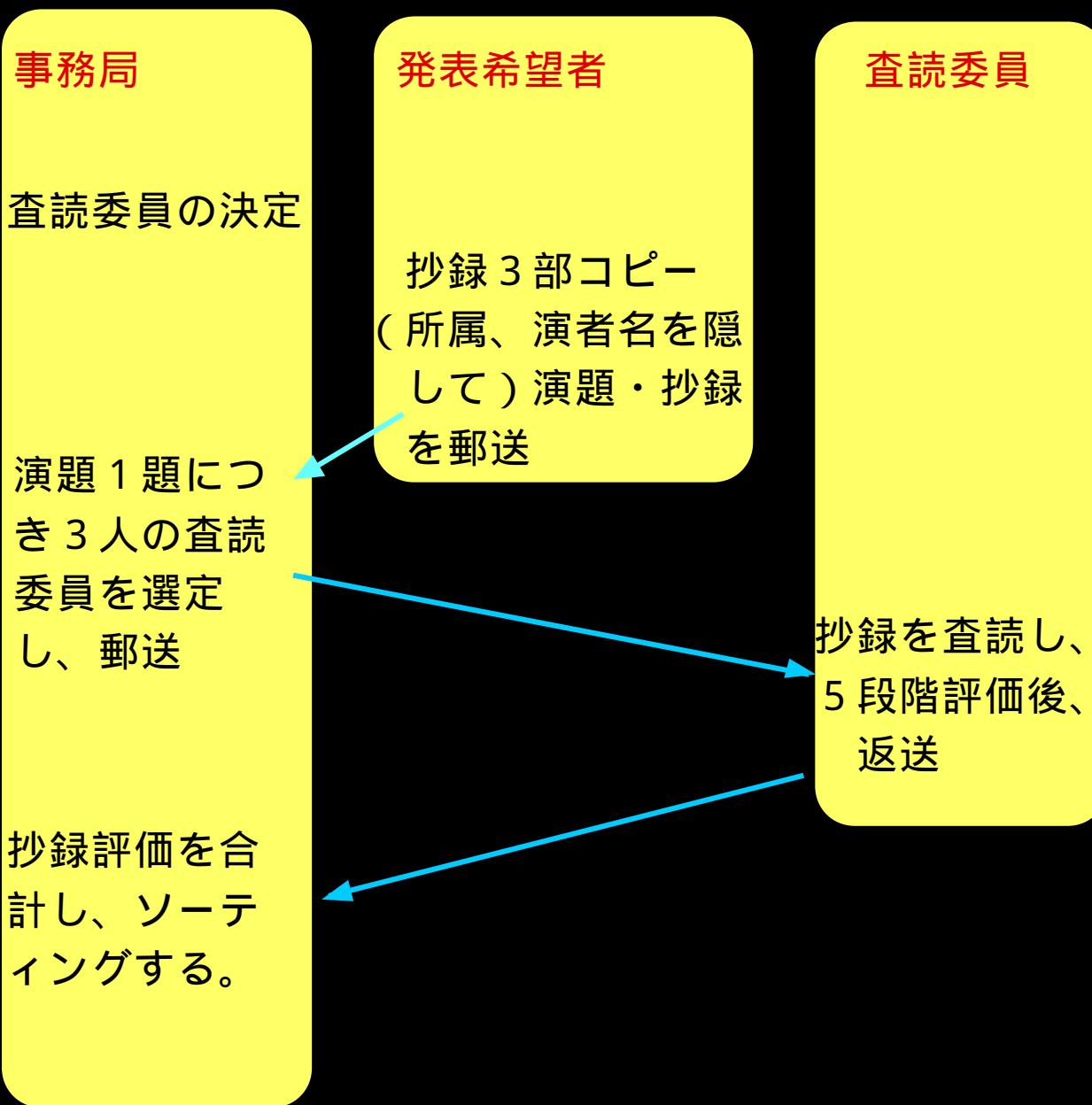


演題登録オンライン化の目指すメリット

- 1、学術集会事務局の省力化
- 2、経費の節約

演題抄録査読の従来の方法（日本小児科学会）



オンライン化で使用するホームページ

学術集会 H P ;

誰でもアクセスできる
公的 H P。
この H P から演題登
録を行う。

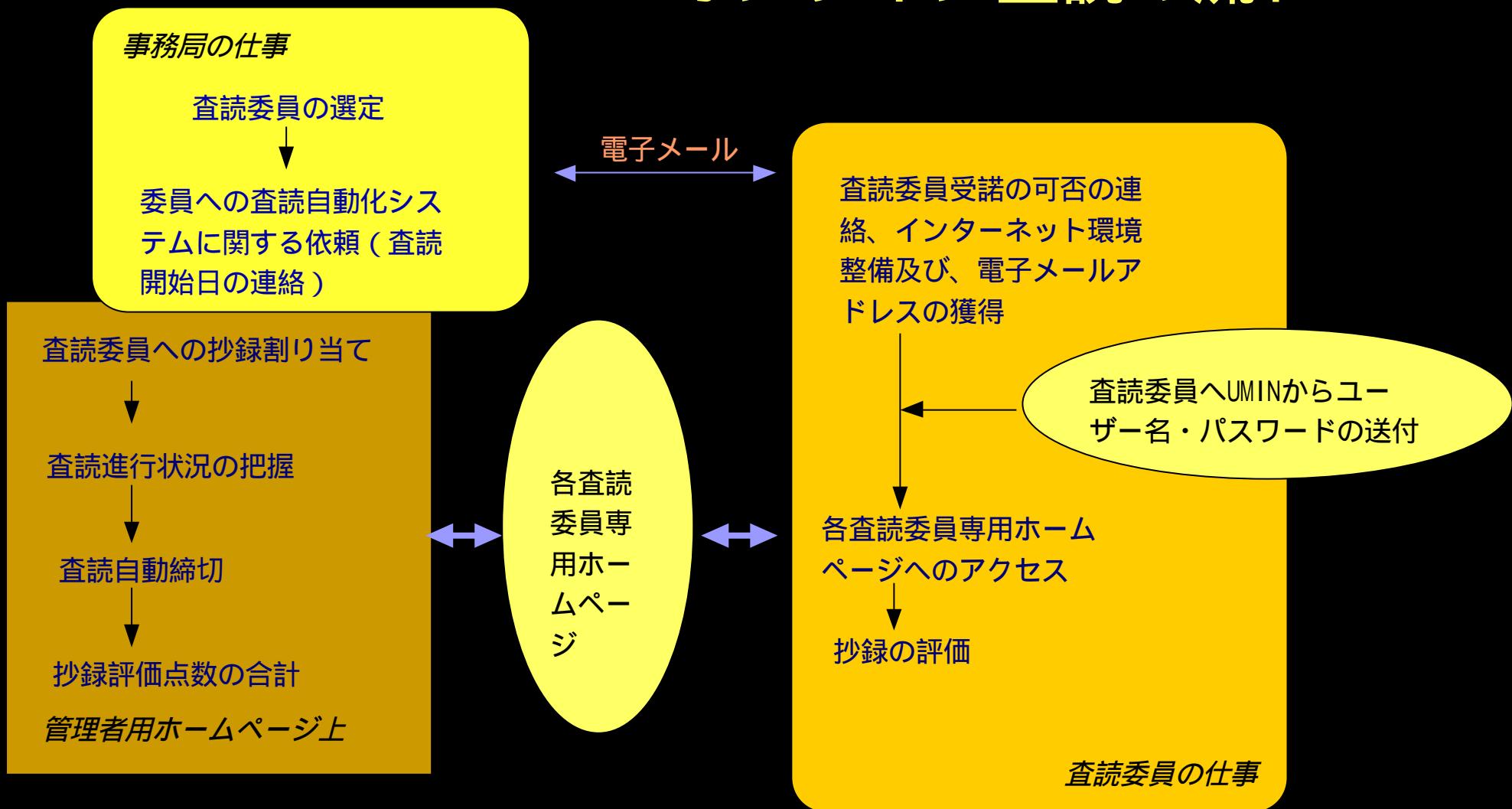
管理者用 H P

学術集会事務局の
特定の関係者のみが
アクセスできる。
演題登録情報、
査読情報、
抄録集編集など
事務局としての仕事
を行う。

査読委員専用 H P

ユーザー名、パスワード
をインプットする。
演者名、所属はみられない

オンライン査読の流れ



査読委員は UMIN によって作製された査読用ページにアクセスして、締切までに査読を行う。事務局とのやり取りは全て、E-mail、インターネットで行う。

管理者ページからみた査読委員割り当て表

演題分類欄

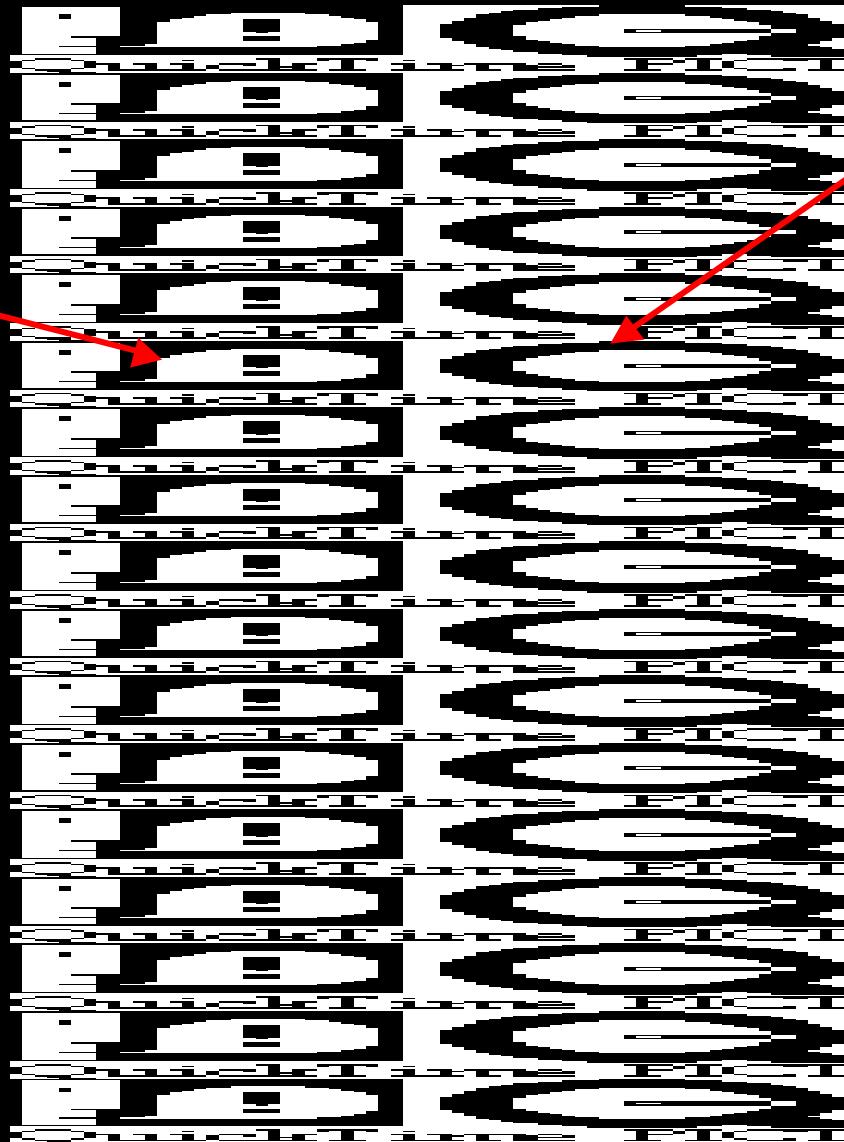
演題分類欄	査読委員のアドレス
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10
11	11
12	12
13	13
14	14
15	15

査読委員のアドレス

これで、演題分類別に
どの査読委員を割り振りを
行う。

査読委員に抄録を割り振る管理者ページ

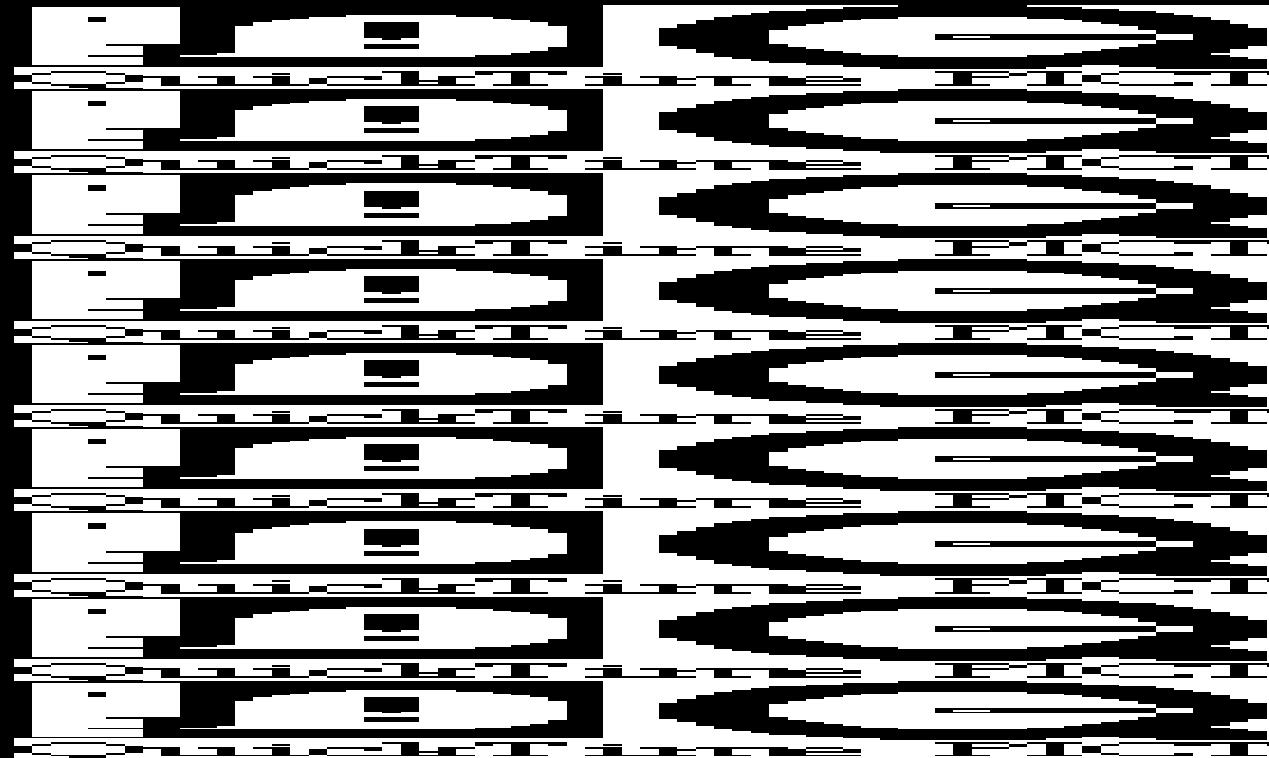
査読委員のアドレス



割り振られた抄録登録番号

このページで、抄録を割り振ることが可能で、かつ、査読進行状況が把握できるようになっている。

査読委員がアクセスして最初に出会うページ

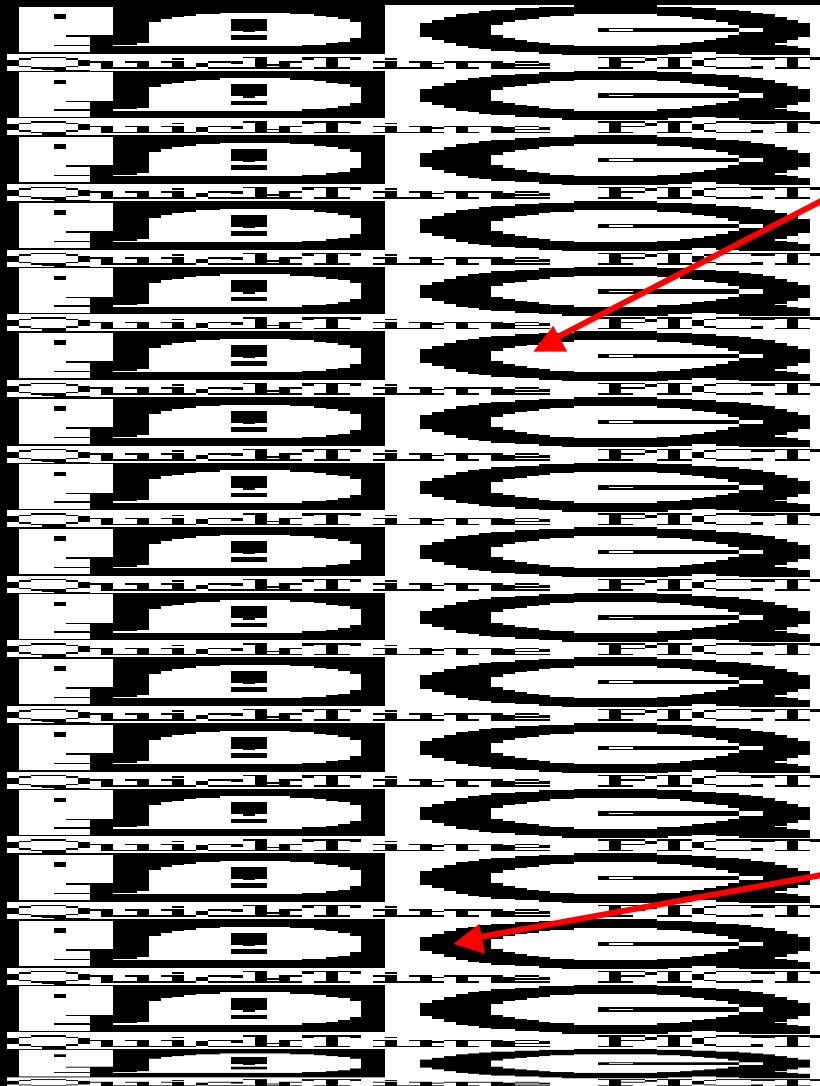


このページにユーザ名、パスワードを入力し、ログインすると、自分に割り振られた演題名一覧表を見ることができる。

査読委員がログインして最初にみる演題一覧表

演題登録番号	分類名	演題名（ここでは隠してある）	評価点
1	1		
2	2		
3	3		
4	4		
5	5		
6	6		
7	7		
8	8		
9	9		
10	10		
11	11		
12	12		
13	13		
14	14		
15	15		
16	16		
17	17		
18	18		
19	19		
20	20		

査読委員が抄録文面を見ることができるページ



抄録文章の欄（ここでは隠してある）

演者名、所属名は見えない。

評価点のボタン；こここのボタンを押して評価点をインプットする

オンライン査読開始前の心配事項

- 1、学会理事会の了承を得られるか。
- 2、査読委員の協力が得られるか。
- 3、査読委員のインターネット・電子メール環境はどうか。
- 4、査読委員は自身でインターネット・電子メールが使用できるか。

オンライン査読に対する査読委員の反応 (1 9 9 9 年当時)

- 1、私立大学・病院では、インターネット環境の整わない所もあつたが、結局は全員が対応可能であった。
- 2、査読委員自身がインターネットに対応できない時は、対応可能なDrが秘書に助力を依頼した模様である。
- 3、査読状況を隨時把握できるため、査読進行のお願いを適宜行うことができ、締切日までに終了した。
- 4、自宅のインターネット環境が整備されていた委員には、評判が良かった。
- 5、文章を読むのにディスプレイ画面では疲れやすいので、プリントアウトして査読したという委員もいた。

オンライン査読システムの有無による オンライン演題登録システムの事務内容比較

従来	オンライン査読のない 演題登録オンライン	オンライン査読のある 演題登録オンライン化
抄録は発表者が用紙に記入する。	抄録内容を全部、PC端末から事務局が紙にプリントアウトする。 (演題登録数が1000題なら1000枚)	必要ない。
発表希望者が抄録の氏名、所属を隠して3部コピーする	事務局が抄録の氏名、所属を隠して3部コピーする。 (例；演題数1000題なら3000枚)	コピーの必要なし。
査読委員との抄録のやりとりが郵送	従来方法と同様の郵便料金	郵便料金はない。
査読委員への抄録の割り振りに人手がかかる	従来方法と同様の人手	2人で可能
査読状況の把握は困難	従来方法と同様	隨時把握可能
評価点入力などは人手でPCにインプット	従来方法と同様	自動計算及びソーティング

オンライン査読システムの有無による オンライン演題登録システムの事務内容比較 のまとめ

オンライン査読システムのあるオンライン演題登録システム：A
オンライン査読システムのないオンライン演題登録システム：B
従来の方法：C

経費と仕事量； $A < C < B$

結論：オンライン査読システムのない 演題登録オンライン化

人手（学会運営委託会社の事務量・請求費用）・経費の
増加を招くのみであり、オンライン化のメリットはなく
なる可能性が大である。